

エイズ予防指針の国民理解および施策の効果の モニタリングに関する研究

一般住民の HIV 感染症に関する 知識・態度・行動についての調査研究結果報告書

研究代表者：四本美保子（東京医科大学）

研究分担者：白阪琢磨（大阪医療センター、公益社団法人エイズ予防財団）

研究協力者：井上洋士（株式会社アクセライト）、山崎厚司（公益社団法人エイズ予防財団）、

戸ヶ里泰典（放送大学）、細川陸也（京都府立医科大学）、

大北全俊（滋賀医科大学）、稲元洋輔（公益社団法人国際経済労働研究所）

2026年3月

厚生労働行政推進調査事業費補助金

（エイズ対策政策研究事業）

「エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究」班

目次

1. 目的	2
2. 対象と方法	2
3. 結果	2
1) 回答者の属性	2
2) HIV についての関心及び感染者数・感染経路に関する知識	4
3) HIV 感染への不安	5
4) HIV やエイズの予後や治療についての印象	5
5) HIV 陽性者に対する見方・向き合い方	6
6) HIV や新型コロナウイルスに関連する経験	8
7) HIV 医療や治療に関する知識	8
8) HIV 陽性者に対する社会的距離	9
9) 回答者の特性	12
4. まとめ	15
5. 謝辞	14

1. 目的

本研究では無記名自記式質問紙調査（アンケート調査）を用い、一般市民における HIV/エイズ対策の理解と経験、スティグマ（差別・偏見）の現状を明らかにし、エイズ施策の執行状況と効果をモニターし評価する指標を開発することを目的としました。

2. 対象と方法

M社のモニターパネルを対象とし、令和5年「国民生活に関する世論調査」に基づき、地域11ブロック、性別、年齢について、同調査の割合に基づいて割り付けました。調査方法は、無記名自記式ウェブ質問紙調査とし、得られた有効回答者の回答データを分析しました。

2025年4月にウェブ調査を実施し、3,169人から回答を得ました。不正回答及びHIV陽性者の回答を除いた3,140人の回答を有効と判断し、分析対象としました。一部については、結果の時系列的解釈を行うために、厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」班が2019年及び2020年に実施した「一般市民を対象とした普及啓発の開発と実践」での「HIV感染症に関する国民の知識の状況の調査」の結果を参考値とし、今回の結果と比較しました。

本調査研究は、大阪医療センターにて倫理審査を受け承認を得ています。

3. 結果

1) 回答者の属性

以下の表の通りです。これらはM社の登録情報から得たデータです。

[表1]
性別

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 男性	1567	49.9
2 女性	1573	50.1

[表2]
年齢

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 12才未満	0	0.0
2 12才～19才	115	3.7
3 20才～24才	165	5.3
4 25才～29才	320	10.2
5 30才～34才	237	7.5
6 35才～39才	317	10.1
7 40才～44才	337	10.7
8 45才～49才	379	12.1
9 50才～54才	346	11.0
10 55才～59才	306	9.7
11 60才以上	618	19.7

[表3]

都道府県

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 北海道	136	4.3
2 青森県	35	1.1
3 岩手県	29	0.9
4 宮城県	73	2.3
5 秋田県	24	0.8
6 山形県	21	0.7
7 福島県	31	1.0
8 茨城県	51	1.6
9 栃木県	22	0.7
10 群馬県	36	1.1
11 埼玉県	206	6.6
12 千葉県	163	5.2
13 東京都	384	12.2
14 神奈川県	243	7.7
15 新潟県	55	1.8
16 富山県	32	1.0
17 石川県	26	0.8
18 福井県	15	0.5
19 山梨県	22	0.7
20 長野県	44	1.4
21 岐阜県	56	1.8
22 静岡県	76	2.4
23 愛知県	193	6.1
24 三重県	49	1.6
25 滋賀県	39	1.2
26 京都府	54	1.7
27 大阪府	235	7.5
28 兵庫県	122	3.9
29 奈良県	32	1.0
30 和歌山県	18	0.6
31 鳥取県	11	0.4
32 島根県	13	0.4
33 岡山県	53	1.7
34 広島県	68	2.2
35 山口県	29	0.9
36 徳島県	16	0.5
37 香川県	27	0.9
38 愛媛県	40	1.3
39 高知県	10	0.3
40 福岡県	137	4.4
41 佐賀県	19	0.6
42 長崎県	29	0.9
43 熊本県	46	1.5
44 大分県	21	0.7
45 宮崎県	33	1.1
46 鹿児島県	39	1.2
47 沖縄県	27	0.9

[表4]

居住地域

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 北海道	136	4.3
2 東北地方	213	6.8
3 関東地方	1105	35.2
4 中部地方	568	18.1
5 近畿地方	500	15.9
6 中国地方	174	5.5
7 四国地方	93	3.0
8 九州地方	351	11.2

[表5]

職業

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 公務員	119	3.8
2 経営者・役員	38	1.2
3 会社員(事務系)	462	14.7
4 会社員(技術系)	371	11.8
5 会社員(その他)	537	17.1
6 自営業	147	4.7
7 自由業	55	1.8
8 専業主婦(主夫)	379	12.1
9 パート・アルバイト	511	16.3
10 学生	179	5.7
11 その他	85	2.7
12 無職	257	8.2

2) HIV についての関心及び感染者数・感染経路に関する知識

HIV についての関心は、表 6 にあるように、非常に関心がある・関心がある、合わせて 38.2% でした。参考値（同様の先行調査結果 2019 年：55.0%、2020 年：51.3%）と比較すると、関心度は下がってきていることが認められました。

[表6]

Q1 あなたは、HIVやエイズについてどの程度関心がありますか。

非常に関心がある・関心がある、合わせて38.2%。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 非常に関心がある	211	6.7
2 やや関心がある	990	31.5
3 あまり関心がない	1301	41.4
4 全く関心がない	638	20.3

表 7 に示すように、1 年間の新規 HIV 感染者数は、2023 年は概ね 1000 人ですが、そのことを知っている人は 14.4% にとどまりました。参考値では、2019 年は 23.7%、2020 年は 21.9% が正解でしたので、新規 HIV 感染者数を知っている人は減少してきています。

[表7]

Q2 日本において、2023年の1年間にHIVに感染していたことがわかった人は、どれくらいでしょうか。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 10,000人より多い	623	19.8
2 約10,000人	484	15.4
3 約1,000人	453	14.4
4 約100人	155	4.9
5 約10人	25	0.8
6 いない(0人)	18	0.6
7 わからない	1382	44.0

HIV 感染経路については、表 8 にありますように、一番多く正解だったのは、性行為で 82.0%（参考値 2019 年 91.6%、2020 年 90.0%）、ついで輸血や注射器の共用が 68.5%（同 2019 年 81.0%、2020 年 76.5%）、授乳や出産が 41.6%（同 2019 年 48.9%、2020 年 42.9%）でした。その一方で、風呂やトイレを共用することで感染すると誤って考えている人が 9.6%、蚊に刺されることで感染すると誤って考えている人は 25.1%、同じ鍋や皿をつついても感染すると誤って考えている人が 5.8% でした。参考値と比較して、全体として、

HIV 感染経路について正確な知識を持つ人の割合は、やや低下していると考えられました。

[表8]

Q3 HIVやエイズの感染経路として該当すると思うものをすべてお選びください。(いくつでも)

複数回答	n	%
全体	(3140)	
1 患者や感染者の咳やくしゃみを吸い込む	291	9.3
2 患者や感染者と職場や学校で一緒に過ごす	78	2.5
3 患者や感染者とキスをする	1046	33.3
4 患者や感染者との性行為	2575	82.0
5 患者や感染者と風呂、トイレを共用する	301	9.6
6 患者や感染者とカミソリを共用する	1392	44.3
7 患者や感染者からの輸血や、注射器の共用	2150	68.5
8 患者や感染者を刺した蚊に刺される	787	25.1
9 患者や感染者と同じ鍋や皿をつつく	182	5.8
10 患者や感染者からの授乳や出産	1306	41.6
11 その他【 】	2	0.1
12 わからない・あてはまるものはない	360	11.5

3) HIV 感染への不安

表 9 のように、自分自身が HIV 感染をすることへの不安については、「大変不安がある」「やや不安がある」をあわせて 21.3%となっていました。参考値（同様の先行調査結果 2019 年：22.8%、2020 年：22.4%）と比較すると、大きな変化は認められませんでした。

[表9]

Q4 あなた自身が、今後HIVに感染する不安がありますか。
あてはまるものを1つお選びください。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 大変不安がある	101	3.2
2 やや不安がある	569	18.1
3 あまり不安はない	1398	44.5
4 全く不安はない	595	18.9
5 自分はすでにHIV感染している	0	0.0
6 わからない	477	15.2

4) HIV やエイズの予後や治療についての印象

表 10 に示すように、「治療費や通院費が膨大になる」が 43.2%、「HIV 感染すると死に至る」が 32.6%、「原因不明で治療法がない」が 28.0%でした。

[表10]

Q5 あなたは、HIVやエイズについてどのような印象をお持ちですか。
あてはまるものをこの中からすべてお選びください。(いくつでも)

複数回答	n	%
全体	(3140)	
1 HIV感染すると死に至る	1024	32.6
2 原因不明で治療法がない	878	28.0
3 特定の人たちにだけ関係のある病気である	321	10.2
4 毎日大量の薬を飲まなければならない	548	17.5
5 仕事や学業など、通常の社会生活はあきらめなければならない	260	8.3
6 治療費や通院費が膨大になる	1356	43.2
7 あてはまるものはない	656	20.9

5) HIV 陽性者に対する見方・向き合い方

(1) パブリックスティグマ

表 11 の項目 1~21 は、パブリックスティグマ尺度です。Mak らにより開発された 21 項目尺度で、2 つの下位尺度から成り立っています。パブリックスティグマ(PS)下位尺度は、“HIV 陽性者は社会にとって負担となっている”など 12 項目からなっています。パーソナルアドボカシー (PA)下位尺度は、“私が雇用主であれば HIV 陽性者に仕事の機会を提供する”など 9 項目からなっています。各項目「全くあてはまらない」から「とてもあてはまる」までの 6 件リッカート法で測定し、尺度の得点は各々各項目のスコアを単純加算して計算します。

パブリックスティグマの 12 項目中、「ややあてはまる」「あてはまる」「とてもあてはまる」を合わせた人の割合が 30%を超えている項目は、「HIV 陽性者はとてもいやだ。」

(35.2%)、「HIV 陽性者と自分と二人だけになるのはこわい。」(34.2%)「特定の人が HIV 陽性者とわかったら、私はその人を自分から遠ざける。」(33.5%)、「HIV 陽性者は好きになれない。」(33.0%)、「私は HIV 陽性者とはできる限り距離を置いている。」(32.7%)、の 5 項目でした。一方、パーソナルアドボカシーの 9 項目中 30%を超えている項目は、「HIV 陽性者は、社会からチャンスが得られれば、社会に復帰できる。」(72.0%)、「私は、HIV 陽性者は公平に扱われるべきだと思う。」(65.0%)、「HIV 陽性者を私は受け入れる。」

(53.2%)、「私は HIV 陽性者と友達になることに抵抗はない。」(50.9%)、「私が雇用主であれば HIV 陽性者に仕事の機会を提供する。」(43.2%)、「HIV 陽性者が、私たちからケアを受けるのは当然のことだ。」(35.1%) の 6 項目でした。HIV 陽性者擁護の意見が差別的な意見よりも全体としては多い傾向が認められました。

パブリックスティグマの 12 項目の得点を加算したパブリックスティグマの下位尺度のスコアを年代別に見たものを、図 1 に示します。50 代、60 代だけでなく、10 代、20 代でもパブリックスティグマは高いという結果になっていました。

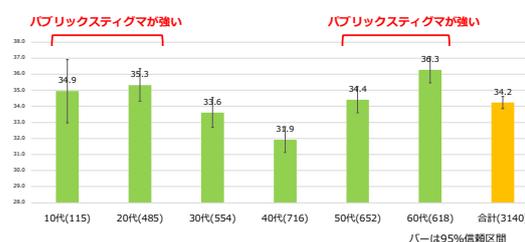


図1 パブリックスティグマスコア：年代別

(2) HIV やエイズについてのイメージ

表 11 の項目 22~31 に該当します。「ややあてはまる」「あてはまる」「とてもあてはまる」を合わせると、81.4%が「HIV 感染するのは怖いことだ。」としており、64.6%が「HIV 陽性者が自分の感染を相手に伝えずに性行為を行った場合、処罰されるべきだと思う。」としていました。また、「もし自分が HIV に感染したら恥ずかしい。」が 60.4%と、高い割合でした。一方で、「HIV には感染予防方法があり、その方法をとれば感染可能性は、ほぼなくなる。」は 59.8%が「あてはまる」としており、予防方法があることは知りつつ、怖い感染症という理解をされているようでした。

(3) 特定の対象についての嫌悪感

表 11 の項目 32~40 は、同性間性交渉をする方、性産業従事者、薬物使用者に対する嫌悪感を 3 項目ずつたずねたものです。項目 32、35、38 の「〇〇はとても嫌だ」に限り「ややあてはまる」「あてはまる」「とてもあてはまる」を合わせた数値をみると、同性間性交渉をす

[表11]

Q6 以下の項目はHIVとともに生きる人に対するあなたの見方・向き合い方に関するものです。
各項目についてよく読み、あなたにとってもっとも適切な数字を一つ選んでください。

各々単一回答		1	2	3	4	5	6
全体		全くあてはまらない	あてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	とてもあてはまる
1	私はHIV陽性者とはできる限り距離を置いている。	(3140) 465 14.8	779 24.8	868 27.6	604 19.2	269 8.6	155 4.9
2	私はHIV陽性者には積極的に手を差し伸べている。	(3140) 905 28.8	1087 34.6	838 26.7	219 7.0	60 1.9	31 1.0
3	HIV陽性者は社会にとって負担となっている。	(3140) 448 14.3	867 27.6	1048 33.4	571 18.2	142 4.5	64 2.0
4	HIV陽性者は他人に迷惑をかけることが多い。	(3140) 443 14.1	892 28.4	962 30.6	604 19.2	157 5.0	82 2.6
5	私が雇用主であればHIV陽性者に仕事の機会を提供する。	(3140) 285 9.1	455 14.5	1044 33.2	948 30.2	313 10.0	95 3.0
6	HIV陽性者が他人に危害を加えることがあるのではないかと私は心配に思う。	(3140) 557 17.7	908 28.9	912 29.0	561 17.9	145 4.6	57 1.8
7	特定の人がHIV陽性者とわかったら、私はその人を自分から遠ざける。	(3140) 415 13.2	658 21.0	1015 32.3	721 23.0	230 7.3	101 3.2
8	HIV陽性者はとてもいやだ。	(3140) 409 13.0	673 21.4	953 30.4	747 23.8	232 7.4	126 4.0
9	HIV陽性者のためのボランティア活動に、私は喜んで参加する。	(3140) 556 17.7	768 24.5	1170 37.3	502 16.0	104 3.3	40 1.3
10	HIV陽性者が、私たちからケアを受けるのは当然のことだ。	(3140) 285 9.1	539 17.2	1213 38.6	822 26.2	205 6.5	76 2.4
11	HIV陽性者は好きになれない。	(3140) 314 10.0	654 20.8	1135 36.1	733 23.3	204 6.5	100 3.2
12	HIV陽性者は隔離されるべきだ。	(3140) 507 16.1	838 26.7	1108 35.3	454 14.5	162 5.2	71 2.3
13	HIV陽性者を見かけたら、その人を避けるのが一番よい。	(3140) 535 17.0	763 24.3	1080 34.4	529 16.8	153 4.9	80 2.5
14	私は、HIV陽性者は公平に扱われるべきだと思う。	(3140) 158 5.0	273 8.7	668 21.3	1198 38.2	582 18.5	261 8.3
15	HIV陽性者の行動は、他の人を怒らせる。	(3140) 460 14.6	925 29.5	1162 37.0	420 13.4	127 4.0	46 1.5
16	私はHIV陽性者と友達になることに抵抗はない。	(3140) 195 6.2	409 13.0	938 29.9	925 29.5	471 15.0	202 6.4
17	HIV陽性者を私は受け入れる。	(3140) 196 6.2	354 11.3	920 29.3	1119 35.6	394 12.5	157 5.0
18	HIV陽性者は、社会からチャンスが得られれば、社会に復帰できる。	(3140) 120 3.8	243 7.7	516 16.4	1329 42.3	698 22.2	234 7.5
19	HIV陽性者が、他人から差別を受けるのは、ごく普通のことだ。	(3140) 483 15.4	821 26.1	1104 35.2	555 17.7	122 3.9	55 1.8
20	HIV陽性者の権利のために私は心からたたかう。	(3140) 415 13.2	662 21.1	1232 39.2	640 20.4	135 4.3	56 1.8
21	HIV陽性者と自分と二人だけになるのはこわい。	(3140) 394 12.5	696 22.2	975 31.1	693 22.1	255 8.1	127 4.0
22	HIVには感染予防方法があり、その方法をとれば感染可能性は、ほぼなくなる。	(3140) 135 4.3	330 10.5	797 25.4	1077 34.3	601 19.1	200 6.4
23	HIV感染した場合、その責任はその人自身にある。	(3140) 250 8.0	586 18.7	1159 36.9	816 26.0	228 7.3	101 3.2
24	HIV陽性者には不特定多数の性的パートナーがいると思う。	(3140) 240 7.6	505 16.1	1018 32.4	918 29.2	324 10.3	135 4.3
25	HIV陽性者は乱れた性生活を送っていると思う。	(3140) 280 8.9	629 20.0	1105 35.2	785 25.0	222 7.1	119 3.8
26	HIV陽性者が自分の感染を相手に伝えずに性行為を行った場合、処罰されるべきだと思う。	(3140) 193 6.1	351 11.2	567 18.1	804 25.6	634 20.2	591 18.8
27	もし自分がHIVに感染したら恥ずかしい。	(3140) 164 5.2	362 11.5	717 22.8	1035 33.0	543 17.3	319 10.2
28	HIVやエイズは、自分にとって身近なことだと感じる。	(3140) 442 14.1	883 28.1	1068 34.0	514 16.4	172 5.5	61 1.9
29	HIVやエイズは、社会にとって脅威である。	(3140) 154 4.9	358 11.4	843 26.8	1163 37.0	448 14.3	174 5.5
30	HIV感染するのは怖いことだ。	(3140) 83 2.6	135 4.3	366 11.7	950 30.3	924 29.4	682 21.7
31	HIVは特定の限られた人が感染する。	(3140) 281 8.9	627 20.0	1109 35.3	781 24.9	252 8.0	90 2.9
32	同性と性交渉をする人はとてもいやだ。	(3140) 223 7.1	363 11.6	646 20.6	653 20.8	497 15.8	758 24.1
33	特定の人が同性と性交渉をするとなったら、私はその人を自分から遠ざける。	(3140) 395 12.6	595 18.9	928 29.6	679 21.6	292 9.3	251 8.0
34	同性と性交渉をすることは、道徳的に問題だと思う。	(3140) 487 15.5	656 20.9	999 31.8	571 18.2	239 7.6	188 6.0
35	性産業に従事者はとてもいやだ。	(3140) 305 9.7	596 19.0	918 29.2	784 25.0	313 10.0	224 7.1
36	特定の人が性産業に従事者とわかったら、私はその人を自分から遠ざける。	(3140) 380 12.1	636 20.3	970 30.9	728 23.2	250 8.0	176 5.6
37	性産業に従事することは、道徳的に問題だと思う。	(3140) 364 11.6	667 21.2	1074 34.2	693 22.1	222 7.1	120 3.8
38	薬物を使用することがある人はとてもいやだ。	(3140) 116 3.7	208 6.6	382 12.2	611 19.5	662 21.1	1161 37.0
39	特定の人が薬物を使用することがあるとなったら、私はその人を自分から遠ざける。	(3140) 124 3.9	238 7.6	434 13.8	594 18.9	686 21.8	1064 33.9
40	薬物を使用することは、道徳的に問題だと思う。	(3140) 116 3.7	215 6.8	361 11.5	575 18.3	680 21.7	1193 38.0
41	政府はHIV予防のためにもっと資源（人・もの・お金など）をかけるべきだ。	(3140) 175 5.6	299 9.5	783 24.9	1316 41.9	385 12.3	182 5.8
42	政府はHIV予防に関する学校教育に予算を増やすべきだ。	(3140) 130 4.1	238 7.6	641 20.4	1291 41.1	572 18.2	268 8.5
43	私たちの社会にはHIV陽性者への差別からの保護に関する法律が必要だ。	(3140) 167 5.3	268 8.5	871 27.7	1333 42.5	351 11.2	150 4.8
44	政府はHIVの研究に関する予算を増やすべきだ。	(3140) 154 4.9	270 8.6	868 27.6	1308 41.7	384 12.2	156 5.0
45	人は社会のルールを厳格に守るべきだと思う。	(3140) 113 3.6	194 6.2	560 17.8	1254 39.9	661 21.1	358 11.4

る方 60.8%、性産業従事者 42.1%、薬物使用者 77.5%で、特に薬物使用者に対する嫌悪感が多いこと、同性間性交渉をする方への嫌悪も過半数で感じられていました。

(4) 政府や社会への期待

表 11 の項目 41~45 のように、「政府は HIV 予防に関する学校教育に予算を増やすべきだ。」が 67.9%、「政府は HIV 予防のためにもっと資源をかけるべきだ。」が 60.0%にのぼる一方、「人は社会のルールを厳格に守るべきだと思う。」が 72.4%を占めていました。

6) HIV や新型コロナウイルスに関連する経験

表 12 のうち、「1, 2 度あった」「何度かあった」「しょっちゅうあった」をあわせた割合を見ると、HIV に関連する経験で多かったものは、「テレビ・ラジオ・動画などで HIV 陽性者に関する番組を視聴した」(47.5%)、「HIV 陽性者が登場する映画や演劇を観た」(32.2%)、「HIV についてインターネット上の情報を調べた」(31.7%) でした。

新型コロナウイルスに関連する経験は、「これまでに自分が新型コロナウイルスに感染したことがある」が 46.8%、「これまでに家族や友人が新型コロナウイルスに感染したことがある」が 69.6%と、回答者の多くが経験をしていました。

[表12]

Q7 HIVや新型コロナウイルスなどにかかわる、あなたのこれまでの経験をお聞きます。

単一回答	全体	1	2	3	4
		全くない	1、2度 あった	何度か あった	しょっ ちゅう あった
1 授業や講演等でHIV陽性者当事者の生の話を聞いた	(3140)	2441 77.7	402 12.8	241 7.7	56 1.8
2 テレビ・ラジオ・動画などでHIV陽性者に関する番組を 視聴した	(3140)	1648 52.5	984 31.3	463 14.7	45 1.4
3 HIV陽性者が登場する映画や演劇を観た	(3140)	2129 67.8	679 21.6	289 9.2	43 1.4
4 HIV陽性者が登場する小説や本を読んだ	(3140)	2467 78.6	426 13.6	214 6.8	33 1.1
5 HIVについてインターネット上の情報を調べた	(3140)	2145 68.3	663 21.1	290 9.2	42 1.3
6 HIVにかかわるイベントに参加した	(3140)	2821 89.8	170 5.4	112 3.6	37 1.2
7 HIVの検査をこれまでに受けたことがある	(3140)	2623 83.5	342 10.9	142 4.5	33 1.1
8 HIVの予防のために薬を内服(PrEP)したことがある	(3140)	2912 92.7	117 3.7	83 2.6	28 0.9
9 これまでに自分が新型コロナウイルスに感染したこ とがある	(3140)	1671 53.2	1298 41.3	148 4.7	23 0.7
10 これまでに家族や友人が新型コロナウイルスに感染し たことがある	(3140)	956 30.4	1579 50.3	554 17.6	51 1.6
11 身の回りにHIV陽性者やエイズ患者の友人・知人・親せ きがいる	(3140)	2893 92.1	157 5.0	70 2.2	20 0.6
12 身の回りにLGBTQ+と総称される性的マイノリティの 知人がいる	(3140)	2565 81.7	371 11.8	155 4.9	49 1.6
13 身の回りに、同性と性交渉をする知人がいる	(3140)	2680 85.4	287 9.1	134 4.3	39 1.2
14 身の回りに性産業の従事者の知人がいる	(3140)	2738 87.2	233 7.4	133 4.2	36 1.1
15 身の回りに薬物を使用することがある知人がいる	(3140)	2794 89.0	250 8.0	82 2.6	14 0.4

7) HIV 医療や治療に関する知識

表 13 のように 15 項目について 3 件法でたずねました。「聞いたことがある」「よく知っている」を合わせてみると、「HIV はウイルスの名前(ヒト免疫不全ウイルス)でエイズは病気の名前(後天性免疫不全症候群)であること」(69.9%)、「HIV に感染すると定期的に通院を続ける必要があること」(66.7%)、「治療方法は進歩しているが、完治させることはできず、治

療を続けなければならないこと」(63.0%)がよく知られていました。2019年、2020年の調査は選択肢も設問も異なるため単純に比較できませんが、概ね知識は向上していると考えられます。

一方「治療により血液中に HIV が見つからないレベルが 6 か月以上続くと HIV は性交渉では相手にうつらないこと」を「聞いたことがある」「よく知っている」割合は 17.3%、「『U=U』というキャンペーン名」については 14.6%でした。参考値での「適切な治療を受けており体内のウイルス量を低値に抑えられている HIV 感染者との性行動による感染はほぼない」を知っている人の割合は、2019年 2.5%、2020年 3.3%でした。このことから、U=U については、この 5 年間で徐々に知られてきていることが確認されました。

これらの項目各々について、「今初めて知った」= 1、「聞いたことがある」= 2、「よく知っている」= 3 と得点化し、単純加算して「HIV 医療や治療に関する知識スコア」として、年代別に見たところ(図 2)、10 代、20 代で知識を多く持っていることがわかりました。

[表13]

Q8 あなたのHIVやHIV医療に関する知識についてお聞きします。
以下の事項についてどの程度知っていますか。

各々単一回答	全体	1	2	3
		今初めて知った	聞いたことがある	よく知っている
1 HIVはウイルスの名前(ヒト免疫不全ウイルス)でエイズは病気の名前(後天性免疫不全症候群)であること	(3140)	944 30.1	1677 53.4	519 16.5
2 クラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかること、HIVに感染しやすいこと	(3140)	1824 58.1	1096 34.9	220 7.0
3 HIVに感染しても治療すれば、エイズはきわめて発症しにくくなること	(3140)	1609 51.2	1277 40.7	254 8.1
4 HIVに感染すると定期的に通院を続ける必要があること	(3140)	1047 33.3	1680 53.5	413 13.2
5 治療方法は進歩しているが、完治させることはできず、治療を続けなければならないこと	(3140)	1162 37.0	1521 48.4	457 14.6
6 適切な治療を受ければ、HIVに感染しても、感染していない人とほぼ同じ寿命を生きることができること	(3140)	1657 52.8	1227 39.1	256 8.2
7 治療薬の副作用はほとんどなく、通常の社会生活を送ることができること	(3140)	1937 61.7	982 31.3	221 7.0
8 治療薬には1日1回1錠の服薬で済むものがあること	(3140)	2452 78.1	531 16.9	157 5.0
9 治療薬には数か月に1回の簡単な注射のみで済むものがあること	(3140)	2591 82.5	446 14.2	103 3.3
10 HIVの医療費は、身体障害者手帳の発行と、それによる医療費助成や自治体の助成を用いることで自己負担分がかなり抑えられること	(3140)	2551 81.2	487 15.5	102 3.2
11 父母のいずれか、または両方がHIV陽性者の場合でも、子どもにHIV感染することなく妊娠・出産できる方法があること	(3140)	2384 75.9	657 20.9	99 3.2
12 日本国内でHIVに感染していることが新たにわかった人の数はこの10年くらい概ね少しずつ減ってきていること	(3140)	2397 76.3	644 20.5	99 3.2
13 日本国内で、ここ数年の間にHIVに感染していることが新たにわかった人で、性的接触による感染は全体の9割に近いこと	(3140)	1953 62.2	945 30.1	242 7.7
14 治療により血液中にHIVが見つからないレベルが6か月以上続くとHIVは性交渉では相手にうつらないこと	(3140)	2598 82.7	449 14.3	93 3.0
15 『U=U(効果的な治療を続けていれば HIV は感染しない。)]というキャンペーン名	(3140)	2681 85.4	365 11.6	94 3.0



8) HIV 陽性者に対する社会的距離

精神疾患とともに生きる人に対する偏見の行動的帰

図2 HIV医療や治療に関する知識スコア：年代別

結として社会的距離尺度が使われています。本調査では“*The Stigma in Global Context Mental Health Study*”において作成され山崎らによって邦訳された調査票をもとに HIV 陽性者に対する社会的距離を測定しました。本研究では、回答者は、提示されたビネット（A 氏の事例）を読んだのち、「Aさんと隣近所になる」「Aさんと職場の同僚になる」「Aさんがあなたの親せきと結婚する」など9項目、「受け入れられる」「たぶん受け入れられる」「たぶん受け入れられない」「受け入れられない」の4件法で回答する形をとりました。

ビネット（A 氏の事例）は以下の通りです。

===

大手の会社で正規職員として勤務している A さん（35 歳、男性、独身）は、数年前に HIV 検査で陽性であるとわかり、通院して治療をしています。職場には HIV 陽性であることを伝え、職場の理解のもと多くの業績をあげてきました。しかし、現在の仕事は休みを取りづらく過重労働が多いため、主治医の勧めもあって負担の少ない仕事に転職しようと考えました。HIV 陽性であることを理解して雇用してくれることを条件にいくつかの会社に当たってみましたが、どこからも採用が出ていません。

たしかに A さんは、治療を続けなければならず、数か月に 1 度は医療機関での診療・検査のために仕事を休む場合があります。また治療薬を別のものに切り替えた際に副作用が生じ、数日から数週間入院が必要なこともありました。しかし、現在のところ症状はなく、通勤も毎日問題なくできます。それに人柄はまじめですし、業務も一般の人と全く同じようにできます。

===

表 14 に 9 項目についてたずねた結果を示しています。「Aさんと隣近所になる」「Aさんとあいさつしたり話したりする」「Aさんと友達になる」という項目に比べて「Aさんに自分の子どもや知り合いの子どもの世話を頼む」「Aさんがあなたの親戚と結婚する」という、より近い関係性になると、「受け入れられない」とする人の割合が増え、社会的距離が遠のく結果になっていました。「受け入れられる」= 1、「たぶん受け入れられる」= 2、「たぶん受け入れられない」= 3、「受け入れられない」= 4 と得点化し、全ての項目の得点を単純加算して、社会的距離のスコア化をしたところ、図 3 に示すような結果になりました。60 代とともに、10 代、20 代で社会的距離スコアは高いという特徴が認められました。

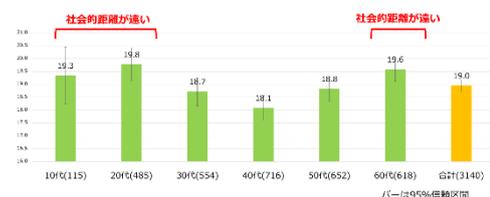


図3 社会的距離スコア：年代別

[表14]

Q9 次にあるAさんの事例を示します。

よく読んでうえで続く問にお答えください。

次の (1) ~ (9) についてそれぞれ当てはまる数字を選んでください。

	全体	1	2	3	4
		受け入れられる	たぶん受け入れられる	たぶん受け入れられない	受け入れられない
1 Aさんと隣近所になる	(3140)	1029 32.8	1484 47.3	435 13.9	192 6.1
2 Aさんとあいさつしたり話したりする	(3140)	1500 47.8	1112 35.4	351 11.2	177 5.6
3 Aさんに自分の子どもや知り合いのこどもの世話を頼む	(3140)	417 13.3	921 29.3	1256 40.0	546 17.4
4 Aさんと友達になる	(3140)	879 28.0	1405 44.7	611 19.5	245 7.8
5 Aさんと職場の同僚になる	(3140)	1043 33.2	1410 44.9	487 15.5	200 6.4
6 Aさんが職場の隣の席になる	(3140)	1009 32.1	1325 42.2	562 17.9	244 7.8
7 Aさんがあなたの親戚と結婚する	(3140)	342 10.9	968 30.8	1218 38.8	612 19.5
8 Aさんと食事をともにする	(3140)	867 27.6	1341 42.7	630 20.1	302 9.6
9 Aさんと通院している病院が同じである	(3140)	1246 39.7	1320 42.0	408 13.0	166 5.3

9) 回答者の特性

その他、調査対象者の特性を以下に表で示します。一部3.1)と重なる項目があります。3.1)で示した属性は、M社の保有するデータをもとにしたものですが、こちらは本調査の回答者が自身について回答した結果をまとめたものです。

[表15]

Q10 あなたが出生時に戸籍や出生届に記載された性別は何ですか。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 女性	1578	50.3
2 男性	1562	49.7

[表16]

Q11 あなたが現在自認している性別は何ですか。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 女性	1549	49.3
2 男性	1553	49.5
3 女性・男性のどちらでもない	23	0.7
4 その他【具体的に：【 】】	1	0.0
5 わからない	14	0.4

[表17]

Q12 あなたは以下のどれにあてはまりますか。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 ヘテロセクシュアル（異性愛者）	2598	82.7
2 バイセクシュアル（両性愛者）	55	1.8
3 ゲイ（男性同性愛者）	19	0.6
4 レズビアン（女性同性愛者）	10	0.3
5 その他【 】	38	1.2
6 わからない	207	6.6
7 決めたくない	79	2.5
8 答えたくない	134	4.3

[表18]

Q13 あなたがこれまでに性行為を行ったことがある相手はどんな方ですか。あてはまるもの1つをお選びください。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 女性のみ	1327	42.3
2 男性のみ	1363	43.4
3 男女両方	64	2.0
4 性行為を行ったことはない	386	12.3

[表19]

Q14 現在あなたは法的に結婚をしていますか。あるいは、事実上結婚している相手がありますか。国外や同性間での結婚・事実上の結婚も含めます。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 法的に結婚している（国外での結婚や同性婚も含めます）	1724	54.9
2 法的には結婚していないが事実上結婚している相手がいる（同性間も含めます）	77	2.5
3 法的にも結婚していないし事実上結婚している相手もいない	1339	42.6

[表20]

Q15 最終学歴を教えてください。

※中退は含まず卒業した学歴をお答えください。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 中学校	90	2.9
2 高等学校	955	30.4
3 専修学校（専門学校）	373	11.9
4 高等専門学校	97	3.1
5 短期大学	277	8.8
6 大学	1218	38.8
7 大学院	94	3.0
8 その他【具体的に：【 】】	1	0.0
9 いずれもない	35	1.1

[表21]

Q16 生計のためのお仕事についてお聞きます。

あなたの働き方について、もっとも近いものをお答えください。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 経営者・役員	58	1.8
2 正社員・正職員	1340	42.7
3 パート・アルバイト	545	17.4
4 契約・臨時・嘱託	135	4.3
5 派遣社員・職員	86	2.7
6 自営業主・自由業	176	5.6
7 自家営業の手伝い	13	0.4
8 内職	8	0.3
9 家事専業	280	8.9
10 定年退職	54	1.7
11 学生	133	4.2
12 働いていない	295	9.4
13 その他【 】	17	0.5

[表22]

Q17 あなたの現在のお仕事の内容を教えてください。

単一回答	n	%
全体	(2361)	
1 専門・技術（保健・医療系）医師・薬剤師・看護師・臨床心理士・技師・技士・療法士・歯科衛生士・管理栄養士など、保健医療の専門知識・技術を要するもの（研究者・教員を含む）	189	8.0
2 専門・技術（社会福祉系）社会福祉士・介護福祉士・保育士・福祉施設指導専門員など、社会福祉の専門知識・技術を要するもの（研究者・教員を含む）	132	5.6
3 専門・技術（その他）製造開発/技術者・建築土木開発/技術者・通信情報開発/技術者・弁護士・公認会計士・（1・2以外の）教員・編集者・デザイナー・芸術家・図書館司書、など	317	13.4
4 管理企業や官公庁の課長職以上、議員、会社経営など	116	4.9
5 事務一般事務、経理、内勤の営業など	544	23.0
6 販売小売・卸売店主、店員、不動産売買、保険外交、外勤セールスなど	237	10.0
7 サービス理・美容師、調理師、接客、ヘルパー、ビル管理など	249	10.5
8 生産現場・建設・工事・採掘製品製造・組立、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など	245	10.4
9 運輸・機械運転・保安トラック・タクシー運転手、鉄道員、船員、建設機械運転、郵便配達、警察官、消防官、自衛官、警備員など	93	3.9
10 運搬・包装・清掃倉庫作業・配達員・ビル建物清掃員・包装従事者、など	98	4.2
11 農業・林業・漁業	27	1.1
12 その他【 】	114	4.8

[表23]

Q18 あなたの家庭（世帯）の昨年の年間収入（税込み）を教えてください。おおよそで結構です。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 100万円未満	157	5.0
2 100万円以上300万円未満	393	12.5
3 300万円以上500万円未満	622	19.8
4 500万円以上800万円未満	678	21.6
5 800万円以上1,000万円未満	249	7.9
6 1,000万円以上	268	8.5
7 わからない	365	11.6
8 答えたくない	408	13.0

[表24]

Q19 あなたの家庭（世帯）の経済状況はいかがでしょう。

単一回答	n	%
全体	(3140)	
1 大変ゆとりがある	54	1.7
2 ややゆとりがある	358	11.4
3 ふつう	1378	43.9
4 やや苦しい	885	28.2
5 大変苦しい	465	14.8

[表25]

Q20 あなたは、現在、自分の健康状態についてどのように感じていますか。

単一回答 全体	n (3140)	%
1 とても良い	246	7.8
2 まあ良い	841	26.8
3 ふつう	1360	43.3
4 あまり良くない	549	17.5
5 良くない	144	4.6

4. まとめ

今回の調査では、一般市民における HIV 感染症に対する関心が薄れてきていること、不安は一定の割合で持たれていること、感染経路や感染者数に関する知識が低下している可能性があることが明らかになりました。一方で、HIV の予後や治療について正確に知っている人は増えていると考えられ、10 代、20 代を中心に、治療の進歩に関する理解は広がっているようです。U=U について知っている人は 2 割に満たない状況にありましたが、この 5 年間では知っている人が増えていると考えられました。

パブリックスティグマとして HIV 陽性者に対する否定的な見方が広範に持たれている一方で、HIV 陽性者を擁護し支援していこうとする姿勢がかなり多く認められたのも特徴的でした。また、10 代、20 代で、50 代・60 代と同じくらいにパブリックスティグマは高くなっているという特徴も認められました。HIV 陽性者に対する社会的距離については、特に HIV 陽性の方が家族や親戚といった身近な人とかかわる場合には、HIV 陽性者と距離を保とうとする様相がみられました。こちらも 10 代、20 代で、60 代と同じくらいに社会的距離がある状況にありました。

薬物使用者や同性間で性交渉をする人、性産業従事者に対する嫌悪感は総じて高いこともわかりました。

このように、2025 年に実施した本調査結果は、一般市民における様々な状況を浮き彫りにしました。これらを概観すると、本調査手法は、一般市民を対象としたモニタリング調査票として一定の有用性を有している可能性が示唆されました。

今後は、得られたデータを用いてより深い分析を行い、それらの結果を公表していくことで、日本の一般市民におけるスティグマの実相に迫っていくことができると考えています。

5. 謝辞

本調査にご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。特に、調査回答に協力して下さった皆様、ありがとうございました。